

**花巻市東和地域協議会  
平成22年度第4回会議記録**

日 時	平成22年12月21日(火) 15:00~17:20							
場 所	東和総合支所1階 第1会議室							
委 員	役職	氏名	出席	欠席	役職	氏名	出席	欠席
	会長	小原 宏	○		委員	菊池 元子		○
	副会長	吉田 英雄	○		委員	猿舘 祐子	○	
	委員	浅沼 幸雄	○		委員	菊池 三恵		○
	委員	小川 洋征	○		委員	平野 広	○	
	委員	平野 保	○		委員	門馬 優子	○	
	委員	赤坂 学	○		委員	藤井 公博	○	
	委員	多田 啓紀	○					
出席職員	東和総合支所 支所長 赤坂謙 地域振興課 課長 多田潤、課長補佐 藤根幸生、地域づくり係長 姉帯工、 主査 伊藤精一 市民サービス課 課長 佐々木力弥 政策推進部企画調整課 課長 市村律、課長補佐 松田英基、企画推進係長 古川昌、行政経営係長 菅野圭、上席主任 寺林和弘、上席主任 佐々木祐子、上席主任 粒針満、副 主任 鎌田真成							
傍聴者	4名 (うち報道機関2名)							

1 開会(司会:藤根課長補佐)

※ 出席者過半数により会議が成立することを報告。

2 会長あいさつ

当初は自主活動として案内したが、その後、市から総合計画の見直し素案を諮問したいとの申し出があり、再度、委員に通知した。本日は、総合計画を中心に話し合いたい。時間があれば主要課題についても話し合いたいと思うが、総合計画は重要案件であるのでよろしくお願いする。

3 諮問及び審議(議長:小原会長)

花巻市総合計画(見直し素案)について

※ 企画調整課から諮問書の伝達。

小原会長	市担当課から説明をお願いします。
古川係長	(資料により説明)
小原会長	今日は質疑応答を行い、答申については1月に再度話し合うことにしたい。質問のある方は発言願いたい。
平野(保)委員	56ページ、道路交通体系整備の成果指標に市内の道路網について満足している市民の割合というのがあり、このような項目設定は非常に良いと思う。市全体ではこの数字かもしれないが、地区によって違うのかなと感じた。65ページの子育て支援では、子育てしやすいまちだと感じる市民の割合という指標があり、これも満足度を示す数字である。満足度というのは市政を進める上で

	<p>大事なことだ。</p> <p>計画にはいろいろな数字が載っており、経済の指標とか活力を示す指標とかあるわけだが、今の時代は右肩下がりの数値だけでさびしくなるし、施策を進める上ではやりにくい面もあるのではないかと感じる。市民の気持ちに沿うような行政を満足度という形でとらえていくことが大事である。そういう意味で、あらゆるところに満足度を示すようなものが調査されて、目標に上がってくると、これからの時代に活かせる計画になるのではないかと感じる。</p> <p>いろいろな項目について地区にふれているところもあるが、概して一本で表現されているので、これでいいのかなと感じる。この計画は合併して間もなく策定されたもので、5年目を迎えると地域の課題はそれぞれであるので、地域性を踏まえたものがあればいいと感じた。</p> <p>イーハトーブ花巻は賢治が唱えたことでいいと思うが、個性がない町が多くなっており、計画もそんな感じになっていると思う。花巻らしさがいろいろなところで見られればいい。そういうときに売りはやはり賢治かなと思う。将来都市像にイーハトーブ花巻を掲げるだけでなく、賢治が理想としたことを盛り込まれれば、花巻らしさのある個性的な計画になると思う。世界全体が平和になるためには個人の幸せが大事だというような話があったが、言い換えれば、均衡ある発展を進めなければ、強くて優しい町にはならないのではないかと感じる。</p>
松田課長補佐	<p>満足度は毎年4月に市民2千人を無作為抽出して行っているアンケート調査の指標である。総合計画は市全体の方向性を示す計画なので、個別の地域を記載するのは難しいが、アンケートでは集計を旧市町単位で行っている。市HPでも掲載しているのでご覧いただきたい。</p> <p>今後の課題として、東和や大迫といった地域的なとらえ方もあるが、山間部とか町なかといった地域性で見たアンケートの分析も必要かもしれない。</p>
藤井委員	<p>計画書は全体的には良いと思うが、例えば、日本がグローバル化した世界の中でTPP構想から避けて通れないという論議がされており、計画に示された産業別の人口動態、生産額も従来の日本の産業構造なり政策を基盤として見直しを立てていると思う。しかし、今、議論されていることに対策をたてなければ岩手の1次産業は崩壊状態になるのは知事も発表している。</p> <p>この計画とは別に、こうなった場合はこういうことが危惧されるというようなことも、もう一つ作っておくとか、市として食糧安全保障に対する取り組みの構想も立案しておくべきではないかと感じる。</p>
古川係長	<p>TPP対策については先行きもわからない状況もあるが、農政では重要な問題であるので、持ち帰って検討させていただきたい。</p>
小原会長	<p>先ほどのアンケート調査結果のインターネット公表については、利用できない人への対応も必要ではないかと感じる。</p>
松田課長補佐	<p>89ページにインターネット関連の指標も掲げているとおりに、さらに進んでいけばよいし、情報を誰もが受け取れるような環境になるように進めていきたい。</p>
小原会長	<p>高齢化率が30%を超えていることも配慮していただきたい。</p>
市村課長	<p>インターネット利用環境が50%位だということを踏まえて、市から情報提供するにはインターネットがあるからいいということではなく、広報誌等の紙媒体も含めて情報提供をしていく。</p>
赤坂委員	<p>20ページのはなまきブランド品目数の内容について教えてほしい。</p> <p>22ページに関連して、松くい虫の被害状況はどのようになっているか。</p>

	29ページに関連して、観光客のアンケート調査を実施してはどうか。
古川係長	<p>はなまきブランド品目数については、はなまきブランドとして一般的に知れ渡っているものを45件リストアップしている。27年にはさらに10品増やすように取り組む。</p> <p>松くい虫については、かつては花巻が北限だったがさらに移動しており、花巻でも相当数の被害が発生している。詳しいことは確認してお知らせする。</p> <p>観光アンケートは、県が観光地ごとに行っているものを活用して動向をとらえて施策に反映している。</p>
赤坂委員	観光に関して、他県では観光看板がよく目につく。平成27年の観光客入込数の目標値は280万人ということだが、花巻地域は観光資源に恵まれており、観光振興に役立てるため、市独自のアンケート調査が必要だと思う。
小原会長	観光客が減っているのはどのような理由が考えられるのか。
古川係長	<p>案内看板については、96ページの観光立市イーハトーブはなまき構想の中にみちさき案内表示の整備拡充をうたっている。観光客が間違いなく移動できるように年次計画を立てて整備していくことにしている。</p> <p>観光客の減少は、全国的な景気低迷、岩手県にとっては平成20年の震災の影響が大きいと考えられる。今後、平泉の世界遺産登録、平成24年にはJRグループの宣伝事業が控えているので、それらを追い風にして観光客を増やしていきたい。</p>
多田委員	平成27年の目標値をたてるための基礎的な数値は、各自治体ともに共通なものを使用しているのか。これまで、いわゆる西高東低という格差を改善するために努力してきたと思うが、その状況は変わっていない。例えば最低賃金を見ても、岩手県は650円位、他は700円を超えており、経済の状況を示す証拠だと思う。また、一人あたりの分配所得が下がっているが、年金は入っているのか。
市村課長	<p>総合計画の策定は地方自治法で定められているが、内容については各自治体に委ねられている。指標をこと細かに出さない市町村もあり、同じデータを使って策定しているわけではない。ただし、分配所得については、県でも市町村所得という資料を出しており、その動向を見ながら推計する方法をとっている。県の統計資料も見比べながら勘案している。</p> <p>各項目の数値は、策定時に掲げていたものの推移を見ながら時点修正をおこなったものである。</p>
多田委員	数値が他よりも低かったりすると、花巻は見劣りがして若者が住むところではないと感じられるかもしれない。もっと魅力のある数値を出せないのかなと感じる。メリハリのある計画にしてほしい。
平野（広）委員	<p>私も計画を見てメリハリがないと感じる。観光立市を掲げながらも震災という特殊事情に引っ張られたもの以上にいかないという計画ではさびしい。市民が期待の持てるようなものにできないのか。</p> <p>推計値には期待値と政策値があり、どうしても動かせないものがあると思うが、動かせるものは動かして、力こぶが見えるような部分があればいいと思う。また、旧4市町の特色を生かすような形が必要であると思う。</p>
猿舘委員	第5章のまちづくりの戦略的構想は基本計画ではどのような位置づけになるのか。
松田課長補佐	第5章の構想は、各分野の再掲というような中身で、特に力を入れて取り組む内容を抜き書きしているものである。
猿舘委員	第4章の強化したい部分だと解釈したが、構想というわりには第4章の項目を羅列しているだけのような感じがする。例えば、医療圏構想でも充実とか情

	<p>報提供とだけでなく、市として今後の医療がどうあるべきかという構想にもっていかないと、構想とよべないと思う。</p> <p>戦略的構想と名を付けるのであれば、指標を設けた方がいいのではないか。</p>
松田課長補佐	<p>第5章の各構想は確かに羅列して形になっているが、ダイジェスト版として項目だけを記載している。詳細は詰めている段階である。</p>
市村課長	<p>総合計画は27年度までが計画期間だが、構想によってはもっと先のものであるので、指標を掲げるとなると不整合が出てくる事情をご理解願いたい。</p>
猿舘委員	<p>そういったことを明記した方が誤解を受けないと思う。</p>
小川委員	<p>総合計画の見直しの中で、特にこれだけは実現したいという項目を教えてほしい。総体的に計画を立てた以上は、花巻市は将来、何をどういうふうにしたいか、主たる目標を2、3挙げる必要があるのではないか。</p> <p>46ページの防災体制の拡充について、組織の育成をどうすればよいか、世代間を越えた活動が必要ではないか。松島町の防災計画を参考にしてはどうか。民生委員の負担が非常に大きくなっている。花巻市に活断層があると聞いたがどこにあるか周知する必要があるのではないか。</p> <p>56ページの道路整備事業について、道路計画の見直し後の資料をお願いしたい。</p> <p>66ページの就学前教育については、花巻市は生ぬるいと思う。秋田県を見習うべきだ。就学前教育は幼保が連携した上でやってもらいたい。子供の指導に地域に関わるように記載されているが、どのように関わっていけばよいか、具体的な指針が必要ではないか。</p> <p>82ページの地域づくり活動について、行政の力だけでは限界があるというのはわかるが、住民がどれほどの意識を持っているのか。こういう財政状況だから民間活力で地域づくりをしていかなければならないことを、出前講座などで普及活動をしていかなければなかなか進まないと思う。協働をいう言葉をもっと住民に知らしめるべきである。</p>
市村課長	<p>10ページに掲げる政策を5つの体系で進めていくわけだが、何か大事なことを1つというのはあり得ないし、これだけが達成されれば目標が達成されるというものはないと思う。予算の範囲内で、市民の意見を聞きながら、どれに重点配分していくかが施策であると思う。活断層は花巻温泉の西の方にある。周知については防災担当に伝える。</p> <p>道路整備計画は、旧花巻では道路整備プログラムがあったが、新市になってからは無いと思うので建設部に確認しておく。</p> <p>就学前教育については、教育委員会に伝える。</p> <p>地域づくり活動については、いろいろな方法で情報発信をしながら参画と協働を広げていきたい。</p>
門馬委員	<p>21ページの6次産業化について、注釈に無いので詳しく教えてほしい。</p> <p>子育て支援は年々充実していることは認めるし、具体的な施策が行われているのはありがたいことだと思うが、肝心の保育に従事している保育士の8割方が臨時採用となっている。仕事自体は正職員も臨時職員も同じだと思うが、待遇面でかなりの差があり、なかなか改善されない。保育を担う人材に対する福利厚生の実装が必要であると思う。</p> <p>窓口のワンストップサービスは非常に好評であるので、もっと推進してほしい。総合相談窓口は、順番待ちのこともあるので充実を図ってほしい。</p>
古川係長	<p>6次産業化は、農業を1次産業にとどまらず、2次産業としての加工、3次産業としての流通として、垣根をとりはらって連携する取り組みである。注釈には入れるようにする。</p>

菅野係長	公立保育園は6割位が臨時職員となっている。市役所や支所だと補助的な業務だが、保育士の場合は保護者や子供から見て同じ先生である。待遇面の格差があるのは現実である。給与体系に経験年数を考慮したことはある。総合計画の中で職員の待遇の充実というのは載らないと思うが、ご意見として承りたい。
松田課長補佐	87ページにの窓口がより利用しやすく便利になったという指標を設定している。策定時から役所が一番変わったのは窓口のやり方である。策定時の目標よりも上回っているので、27年度は64%に設定し直した。さらに改善をして進めていきたい。
浅沼委員	基本構想と基本計画は市がこれから行政的に進める基本中の基本として示されたものと理解したが、その中に第5章の戦略的構想が入った方がいいのかどうか、疑問に感じている。基本計画と切り離して話し合いの場を設けた方がいいのではないか。基本計画自体の内容はこれでいいと思う。
市村課長	これまでの総合計画には議会の議決を得た基本構想、その下に基本計画があって、見直し案でいうとは第4章までの部分であった。今回、戦略的構想と位置付けて5つの構想を載せているが、目標値を掲げて進行管理をしていくのは第4章までの部分となる。見直しに当たって、重点的に取り組みたい構想を策定しているところなので、それらの状況も併せて市民の皆様にダイジェスト版という形でお知らせした方がいいと判断して掲載したものである。
小原会長	これで質疑を終了してよろしいか。 (異議なしの声あり)
市村課長	先ほどの松くい虫の関係で、通常の被害木への予算は9千万円をみているが、それと別に県の財源を入れた監視帯を設置し、今年度と来年度の2年間、80ha位を監視帯の部分で県で実証実験を行う。被害木から半径70mの範囲の木を処分するとかなり防げるという話があるようなので、2カ年で矢沢と東和の2か所を選定して取り組んでいる。監視帯は一関から花巻に北上して盛岡から斜めに大船渡に行く、そこが松くい虫の監視帯として延べ250kmくらい、花巻分としては53kmくらい設定されている。
赤坂委員	安俵地区もかなり被害を受けているが、個人所有の山もあり、立ち入ることができないとか、いろいろな問題がある。そういう問題を話し合わなければならない時期にきている。
市村課長	所有者とも話し合いながら農林水産部で進めるようにする。
赤坂総合支所長	各委員から有意義な意見を受けたので、後ほど答申のまとめ方について協議願いたい。3月議会で提案される予定になっており、現在はパブリックコメントも実施中であり、協議会などの様々な意見を得て成案となる。地域協議会の答申は1月中にお願いしたいとのことである。
小原会長	質疑応答はこれで終了する。

※ 質疑終了後、今後の予定について委員で協議を行い、1月13日までに各委員からの意見を集約した上で、1月20日に地域協議会を開催し、答申案を協議することとした。

#### 4 自主活動

時間の都合により、次回以降に行うこととした。

#### 5 その他

なし。

#### 6 閉会（司会）